

平成30年10月1日

予察情報30-9

# 病害虫発生予報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 10月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
大豆	<b>紫斑病</b>	<b>多い</b>	果樹	<b>ニホンナシの黒星病</b>	<b>やや多い</b>
野菜	白ねぎのさび病	少ない		ニホンナシのシンクイムシ類	並
	白ねぎの軟腐病	並		ブドウのべと病	並
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	並		カキ（三社）の炭疽病	並
	白ねぎのネギアザミウマ	並		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	やや少ない
	<b>白ねぎのネギハモグリバエ</b>	<b>多い</b>		<b>モモのせん孔細菌病</b>	<b>やや多い</b>
	白ねぎのシロイチモジヨトウ	<b>やや多い</b>	花き 球根	チューリップの球根腐敗病	並
	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>多い</b>		きくの白さび病	少ない
	タバコガ類	並		アブラムシ類	少ない
果樹	リンゴ・ニホンナシの輪紋病	やや少ない		<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>多い</b>
	リンゴ・ニホンナシのハダニ類	<b>やや多い</b>	タバコガ類	並	
	リンゴの褐斑病	並			

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974  
 情報参考 URL  
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

## I 大豆

### 1 紫斑病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 8月中旬～9月下旬の降水量が多かった（平年比約254%）。

(3) 防除対策

- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・ 刈遅れは発病を助長するので、刈り遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

## II 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 9月25日調査の発病株率は0%で平年（3.0%）より低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 110 ページ参照

### 2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 9月25日調査の発病株率は0%で平年（6.4%）より低かったが、10月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・ 防除指針 111 ページ参照

### 3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 9月25日調査の発病株率は0.0%で平年（11.4%）より低かったが、風害による葉先枯れが多発しており、10月の降水量は多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ さび病の防除に努める。
- ・ 防除指針 111 ページ参照

#### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 9月25日調査の被害株率は60.8%で、平年（58.6%）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 112～113 ページ参照

#### 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ 9月25日調査の被害株率は52.8%で、平年（18.0%）より高かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 112 ページ参照

#### 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ 9月25日調査の被害株率は0.8%で、平年（1.0%）並であったが、フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は332頭で、平年（146頭）より多かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 113 ページ参照

#### 7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ フェロモントラップによる8月5半旬～9月5半旬の誘殺数は925頭で、平年（432頭）より多かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 79～148 ページのハスモンヨトウの項参照

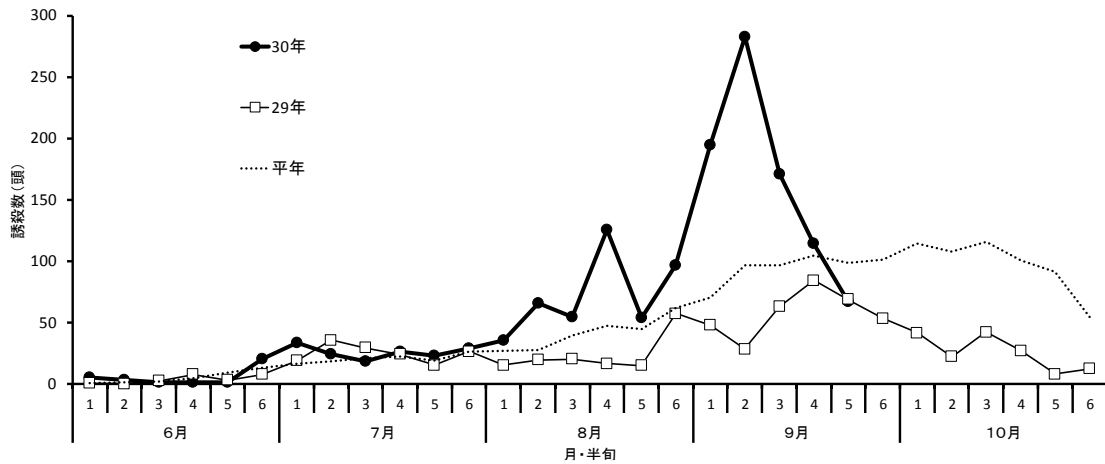


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移

## 8 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが64頭で平年(66頭)並、オオタバコガは130頭で平年(137頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 78～145ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

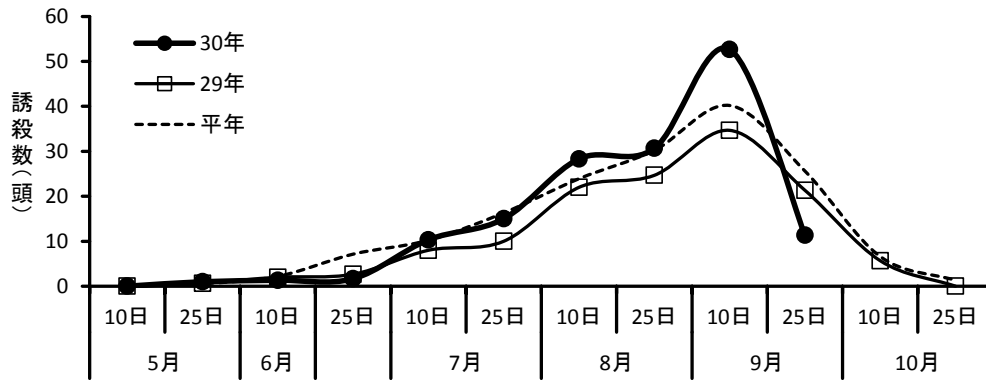


図2 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数推移

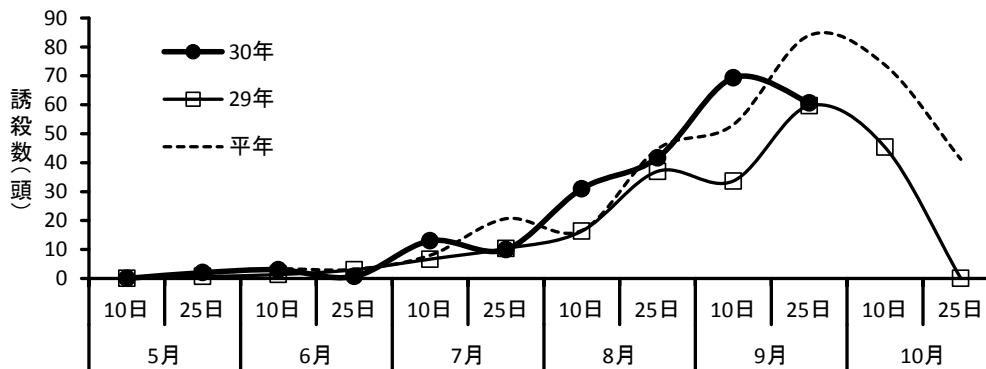


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移

## Ⅲ 果 樹

### 1 リンゴ・ニホンナシの輪紋病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・現在までの発生量はやや少ない。

(3) 防除対策

・病原菌の越冬密度を低くするため、休眠期に病斑（イボ皮）の削り取りや、病斑の多い枝をせん除する。

・防除指針 リンゴ151ページ、ニホンナシ162ページ参照

### 2 リンゴ・ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・現在までの発生量はやや多い。

(3) 防除対策

・越冬密度を低くするため、休眠期に粗皮削りを行う。また、使用済みの誘引ひもは放置せず、園外に持ち出し適切に処分する。

・防除指針 リンゴ151ページ、ニホンナシ162ページ参照

### 3 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・現在までの発生量は少ないが、9月の降水量は多かった。

(3) 防除対策

・病原菌の越冬密度を低くするため、発生園では罹病落葉を集めて園外に持ち出し適切に処分する。

・防除指針 151ページ参照

### 4 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・現在までの発生量はやや多い。

(3) 防除対策

・病原菌の越冬密度を下げるため、10月中下旬以降に10～14日間隔で防除を2回実施する。また、発生が多かった園では11月上旬に追加防除を実施する。

・罹病落葉による黒星病の越冬密度を下げるため、落葉処理（園外への持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎処理、ロータリーによるすき込み等）を徹底する。なお、園外に持ち出し処分する場合は、適切に処分する。

・防除指針 164、170ページ参照

## 5 ニホンナシのシンクイムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・9月1半旬～4半旬までのナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺数は3.5頭で平年（5.5頭）並である。
- (3) 防除対策
  - ・被害果は園外に持ち出し適切に処分する。

## 6 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は少ないが、9月の降水量は多く、10月の降水量も多いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・病原菌の越冬密度を低くするため、伝染源となる罹病葉を集めて園外に持ち出し適切に処分する。
  - ・防除指針 173、174、176ページ参照

## 7 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は少ないが、9月の降水量は多く、10月の降水量も多いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・罹病果は園外に持ち出して適切に処分する。
  - ・病原菌の越冬密度を低くするため、罹病枝は、せん定時にせん除する。
  - ・防除指針 178、179、180ページ参照

## 8 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・フェロモントラップによる9月1半旬～9月4半旬の誘殺数は81頭で、近年（816頭）より少ない。
- (3) 防除対策
  - ・被害果実が認められた園地では越冬密度を低くするため、休眠期に粗皮削りを行う。
  - ・防除指針 178、179、180ページ参照

## 9 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・一部地域の発生量はやや多い。
    - ・風害による葉の損傷が多い。
- (3) 防除対策
  - ・病原菌の越冬密度を低くするため、罹病枝や枯れ枝はせん定時にせん除する。

- ・発生が多かった園では10月上旬にも防除を実施する。
- ・防除指針 183、186ページ参照

## IV 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は少ないが、10月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・地温の高い時期の球根植付けは発生を助長するので、適期の植付けに努める。
  - ・種球の選別を徹底する。
  - ・植付け前の球根消毒を確実に行う。
  - ・防除指針 198、199 ページ参照。

### 2 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・9月25日調査の発病株率は0%と平年（1.6%）より低かった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 201～202 ページ参照

### 3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・黄色水盤による8月5半旬～9月5半旬の誘殺数は670頭で、平年（1437頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 199～224ページのアブラムシ類の項参照

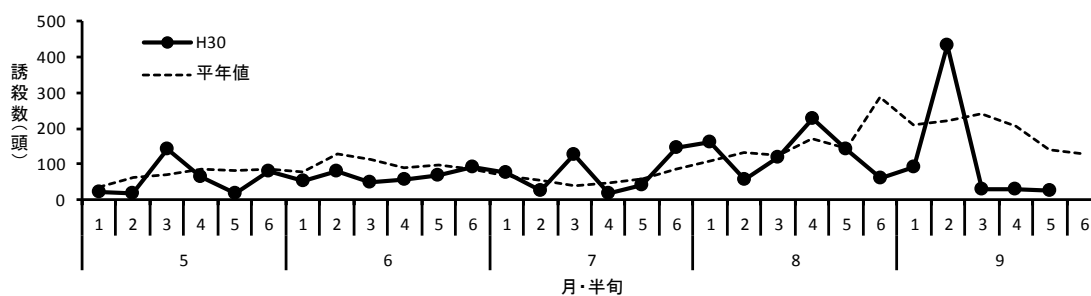


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数推移

### 4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠

**【多発要因】**

- ・フェロモントラップによる8月5半旬～9月5半旬の誘殺数は925頭で、平年(432頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 209～228 ページのハスモンヨトウ等の項参照

**5 タバコガ類**

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが64頭で、平年(66頭)並、オオタバコガは130頭で、平年(137頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 208～228 ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう



# 北陸地方 1か月予報

(9月29日から10月28日までの天候見通し)

平成30年9月27日  
新潟地方气象台 発表

## <特に注意を要する事項>

期間のはじめは、日照時間が少なく降水量の多い状態が続く見込みです。

## <予想される向こう1か月の天候>

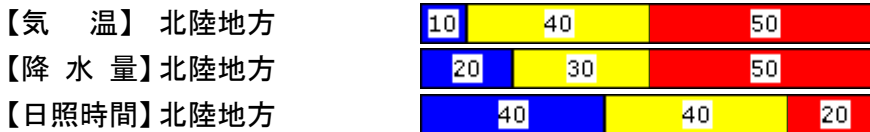
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

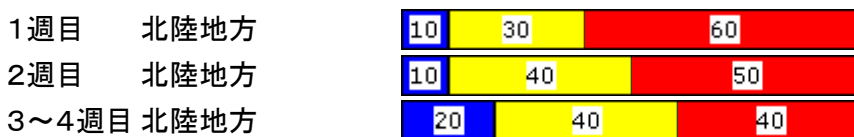
週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い